

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21 年 12 月 19 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 憩 (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 延平 和子 氏 名 羽原 高代
事業所側対応者	職 名 管理者 ・ 介護支援専門員 氏 名 青井 靖修 ・ 石岡 栄子 ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503130	(評価機関で記入)
法人名	(株) アサヒライフコーポレーション	
事業所名	グループホーム 憩	
所在地	福山市山手町1385 - 1 (電話) 084-951-5505	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 12 月 19 日	

【情報提供票より】 21 年 12 月 14 日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	昭和 平成 15 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14.5 人 常勤 14 人 非常勤 1 人 常勤換算 14.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八百円立上りあり)	有 236000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1335 円	

(4)利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	84 歳	最低 64 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院・寺岡整形外科・甲斐歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 22年1月19日

田園地帯の静かな環境の中にある。周辺には畑もあり季節を感じることができる。公民館や中学校も近くにあり、学生の訪問や公民館行事にも積極的に参加し地域との交流に努めている。機能維持のためタオル体操やりハビリ体操を日課としたケアをするとともに、一人ひとりの生活歴を活かした手仕事を通し、生きがいの持てる暮らしができるよう日々努め、また目標にもある笑いと楽しみが持てる生活の確保が出来るよう工夫し安全でその人らしく暮らしてもらえよう管理者、職員が思いを一つにし取り組んでいる。地域の方々協力を得ながら地域に開かれた事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は運営推進会議の中で提案し改善に向けて取り組まれた。今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価及び外部評価の意義について理解されている。自己評価は月1回フローミーティングで職員の意見を集約し管理者が作成された。自己評価を行うことにより日々のケアに対する振り返りの機会となった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	定期的開催し、利用者、家族、民生委員、町内会、福祉を高める会会長、包括支援センター等の参加で併設事業所と合同で行っている。事業所の現状報告や問題点、課題について報告を行い参加者からの意見を聴取しそれらをサービスに活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	入口に意見箱を設置しているが意見は特に入らない。直接意見要望に関して言われることが多い。意見についてはその都度個々に対応している。困難な問題についてはミーティングやカンファレンスで話し合い解決している。それらの内容については運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	公民館行事、中学生のチャレンジウィーク、地域行事に利用者とともに参加している。地域住民と日々の挨拶を通して交流ができています。日頃から挨拶等通して近隣の方との顔なじみの関係築くよう努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして法人の運営理念は作成されている。また事業所独自でスタッフの思いを集約した理念も作られている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアーに掲示し利用者や職員が目につくところに掲示している。ミーティングやカンファレンス等で周知に努めている。職員は日々理念を念頭におきケアの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館行事、中学生のチャレンジウィーク、地域行事に利用者とともに参加している。地域住民と日々の挨拶を通して交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義について理解している。自己評価は月1回フロアーミーティングで職員の意見を集約し管理者が作成された。前回の外部評価は運営推進会議の中で提案し改善に向けて取り組まれた。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、利用者、家族、民生委員、町内会、福祉を高める会会長、包括支援センター等の参加で併設事業所と合同で行っている。事業所の現状報告や問題点、課題について報告を行い参加者からの意見を聴取しそれらをサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各行政担当者と常に連絡を取り、事業所の問題点について相談やアドバイスを得、サービスの向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問時に随時報告を行い、各担当職員が定期的に利用者の様子をお知らせしている。また金銭管理やお便りに写真を添え送付している。職員の異動については口頭でお知らせしている。訪問されない家族には電話で報告する場合もある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見箱を設置しているが意見は特に入らない。直接意見要望に関して言われることが多い。意見についてはその都度個々に対応している。困難な問題についてはミーティングやカンファレンスで話し合い解決している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えているが、ユニット間の異動がある場合についてはユニット間の交流があるため利用者のダメージは殆どない。離職の場合も利用者へ配慮された対応をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加し内容について報告書を作成し、回覧やミーティングで職員に周知している。内部研修は福祉用具の勉強会等行っている。今後は看護師指導のもと医療面での勉強を行う予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	タウンソーシャルワーク研修会に管理者、職員が参加し同業者からの情報提供や勉強会を行ない交流を図り、サービスの向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に見学や体験をしてもらい、場の雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫し納得された上で利用開始となっている。利用開始後も利用者の不安を取り除くようこまめに声かけをしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者に寄り添いながら日々支えあって暮らしている。野菜作りや料理の仕方等昔話を通して教わる場面があり利用者同士も支えあい過ごされている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりとの会話の中から把握し、外食や外出の希望が多く実現に努めている。帰宅願望の方には納得が行くよう自宅のあった場所まで同行し喜んでもらったケースもある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>情報提供を基にサービス担当者者会議を開催し、家族の意見や職員の意見を取り入れ計画を作成している。職員には申し送りで周知し家族の承諾も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月に1度計画の見直しを行っている。入院等で状態に変化があればその都度カンファレンスを行い、医師の意見も取り入れ現状に即した見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援など本人や家族の要望を踏まえ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が協力医療機関となっていて月2回の往診の支援がある。また、皮膚科や歯科の往診もあり適切な医療が受けられるよう体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針を作成し、利用開始時、説明を行うとともに事業所として出来ることと出来ないことについて説明をされ理解をしてもらっている。また管理者、職員も方針を共有し全員で取り組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は尊厳を大切に、やさしい口調で声かけをしている。記録等については取扱いに注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが無理強いはず、その人のペースを保ちながら希望や状態に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけ等出来る方には声かけをし職員とともに行っている。食事風景は会話を楽しみながらされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者同士で入浴されたり、希望を聞き自由に入浴している。職員と会話や歌を歌いながら楽しく入浴できるよう支援している。季節を味わってもらうためゆず湯等の工夫もされている。一人ひとりの体調にも配慮され清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道や生け花、塗り絵、貼り絵等一人ひとりの趣味や好みに合わせて楽しみごとの支援されている。機能低下を防ぐ取り組みとして、タオル体操やリハビリ体操を日課とされている。併設事業所とともに行事を行ったりお茶を楽しんだり気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物ツアーやドライブ、季節に合わせた外出、または動物園に行ったり一人ひとりの希望や体調を考慮しながら戸外に出かける工夫をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていない。ユニット出入り口には鈴をつけるなど工夫をされ、見守りで対応されている。併設事業所との協力も得ながら対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを基に1週間の期間を設け全職員が参加できる勉強会の体制づくりをされている。年1回は消防署指導のもと訓練も実施している。また運営推進会議の中でも地域の方の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は記録し、栄養バランスに配慮された食事内容となっている。身体状況に合わせた配慮もされている。水分摂取量も1000CC～1200CC目標に摂取できるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所要所には安全面を考え、衝撃がないような工夫がされ共有空間には季節が感じられる装飾品があり生活感あふれた飾り付けがされている。光や音にも配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状態に合わせた配置がされ、使い慣れたものの持ち込みもされ、その人らしく居心地良く過ごされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 憩 (ユニット1F)

評価年月日 2009年 12月 19日

記入年月日 2009年 12月 3日

記入者 代表/管理者 氏名 青井 靖修

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>理念をもとに入居者様を支え、理念を目標に入居者様を支えて行けるよう努力しています。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>スタッフミーティングや申し送りの時など機会があれば理念に触れ、具体的なケアについて統一を図っています。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
	<p>玄関、応接室、リビングなど来訪者の方々の目に付きやすい場所に理念の紙を貼り、家族や地域の人々からの質問や相談に対しては理念に基づいてお答えしています。</p>		
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>職員も「地域の住民」としての自覚を持ち地域の人々と接し挨拶や声の掛け合いが自然にできている。近道、通り道として利用される方も多い。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>町内会の一員として町内会活動や行事には積極的に参加している。近隣の保育所、学校からの慰問、体験学習の受け入れなど交流が進んでいます。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などを利用して勉強会や講習会を実施し入居者様や家族、地域の方々と共に学び高め合う場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を踏まえて、主任会議、スタッフミーティング等を通じ目的意識を同じくし、改善に取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様が会議に出席される事により、自然と内容は入居者様が暮らしやすい、安心して生活出来る施設造りが主体になっています。その上で事業所の問題点や今後の課題として提起し参加者から意見を戴いています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市生活福祉課担、介護保険課、障がい福祉課当者とは細かな事でも連絡を取り意見交換をしています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員すべてに勉強会などでの理解は出来ていない。必要な入居者様はすでに成年後見人制度を利用している。		セミナーへの参加、勉強会の実施を積極的に進めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成、各フロアに配布し職員いつでも閲覧できるようにしている。申し送りやミーティング等で検証し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前の説明をしっかりと行い、入居者や家族からの質問や疑問には必ず返事を返し、必要であれば入居者、家族、職員で話し合いをしてお互いの理解と納得を得るよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からの意見、不満、苦情などの訴えがあると同時に介護日誌に内容を記録し職員が対応している。すぐに対応できない問題はミーティングやカンファレンス、会議にかけて問題解決を図っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月定期的に担当職員の手書きによる「家族への手紙」で健康状態や暮らしぶり等を報告。請求書と共に金銭管理帳等必要なものは原本またはコピーにより報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各フロア入口に意見、苦情箱を設置している。必要に応じてフロア会議、主任会議、社内会議などにかけて問題解決を図っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見や提案は常時主任 管理者へ報告されており、必要に応じフロア会議、主任会議、社内会議にかけ、運営に反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ勤務変更ができ、必要な日時に職員が応援に入れる体制をとっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ず職員の配置転換・離職はあるが、ダメージを与えないようお別れ会等をして入居者様が納得のいくような配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>まだまだ回数は少ないが外部のセミナーや研修会への参加を積極的に勧めていおり、参加しやすい環境づくりにも努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>隣接する事業所との交流の機会を多く設けている。合同のイベントや勉強会、合同の運営推進会議等。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>花見、忘年会などの親睦会を会社負担で実施している。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給、賞与</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>その方に関わる職員一人一人が、その方の思いを受け止めケアに反映できるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が納得できるまで何度でも話す機会を設け、それに対しグループホームとして何が出来るか、出来ないか等をしっかり説明している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時すぐに入居出来ない場合が多いので、必ず複数の他事業所(小規模多機能施設、ケアハウス、老人保健施設等)の紹介もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り、何度か足を運んでいただき他の入居者様や職員との馴染みの関係を作りながら入居されるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中でご本人の出来る範囲の仕事(洗濯物干し・たたみ・食器拭き・ゴミ箱折・編み物など)を職員と一緒にする中で、話を傾聴したり、教えて頂く事で感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に関する事は、必要に応じ家族に相談し意見を聞いた上で進めている。クリスマス会などのイベントにも案内を出し一緒に楽しんで頂けるようにしている。また通院介助やご本人の買い物など相談しながら協力していく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、家族とは出来る限り、入居前の話し合いをしっかりと行いその関係や背景を職員が理解した上で適切な対応を取っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族の話をよく伺い、ご本人の要望があれば、個別対応や家族と相談し対応をお願いしている。また、面会や家族		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性や状況に合わせて入居者様が安心して楽しく生活できる環境づくりを心がけている。イベントやレクリエーション、食事等の時も状況に合わせて柔軟な対応を取るよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去(入院)された方への継続的なお見舞いをしている。また退去(死亡)された方のご家族からの紹介で見学や入居の相談に来られるケースが増えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い汲み取る努力をし、家族とも相談しながらご本人の望む生活の実現を目指している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際し、家族・サービス利用事業所の職員、病院などから情報を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の様子、体調の変化等些細なことも、出来るだけ記録にのこし、定期的なカンファレンスやミーティングにおいて、複数のスタッフにより総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人からの相談や訴えがあれば、その都度必要に応じ医師や看護師、家族、職員と話し合いながら、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っているが、必要に応じて現状に即した見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況の記録など必要な情報は常に閲覧、回覧し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は憩いの場所、憩える場所としての考えに基づき他入居者様の迷惑にならない限り要望に沿った支援をする事を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館での文化活動への参加の支援、温水プールでのリハビリ支援、消防・避難訓練での消防署への訓練内容の申し入れ等入居者さまの意向に沿う支援を実施している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人や家族から相談や依頼があれば、迅速に地域関係者と連携を取り問題解決へ向けた支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	赤坂地域包括支援センターと協働している。運営推進会議で定期的に話す機会を設けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望を最優先した上で、長期的、総合的にご本人・家族にとつて、より安心できるかかりつけ医、その他医療機関を紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	福山記念病院、友愛病院、下永病院と連携している。	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	医療連携契約により福山記念病院の看護師(往診担当の看護師も含む)と常に相談できる状況である。また隣接する事業所に勤務する看護師とも連携しており、細やかで迅速な対応が取れるようになっている。	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	ご家族とも入院後の計画を聞き、入院生活を家族任せにしない。洗濯物など、事業所と家族が分担する事で職員が病院に出向く機会も増え、入居者様の現状の確認や励ましの声掛けをし、看護師、家族との情報交換や相談がしやすくなるように努めている。	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時に当事業所の現状を理解して頂き、リスク面も含めて状況に即して関係者が集まり何度でも繰り返し話し合い、誰もが後悔しないよう、慎重かつ綿密に進めている。	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	事業所の「できること・できないこと」は医師や看護師の指示を仰ぎながら見極めご本人・家族に説明している。また状態の変化とともに、必要に応じ看護師、医師、家族と連絡を取り合い情報を共有しながら、今後の変化に備え検討や準備を行っている。	
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	身近なものの馴染みの物を持って行くことは勿論だがより多くの情報交換をし、場所や人が変わっても住み替え前と同様のサービスが提供され不安や混乱を最小限に抑えるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その方の尊厳を大切にしながらも親しみやすさを失わず、安心して生活して頂けるような声掛けや対応を心掛けている。記録や個人情報についても丁寧な取扱いを心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>発語の状態が良くない方にはあいうえおボードや筆談を用いている。声掛けの際には一方的にならないよう心がけ、衣服の着脱介助の際は、何枚かお出ししその中から好みのもので選んで頂くようにする等、自己決定出来るよう配慮している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>高齢化によるADLの低下、認知症の進行による周辺症状の出現・不穏行動など一人ひとりの希望にそうすることが困難な時もあるが、入居者様が決して不快・苦痛な思いをしないよう心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容室・美容室は入居者様の望む通りに支援している。憩への出張理容・美容、好みの店、職員によるカット等。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>望まれる方や出来る方には声掛けしながらその方の負担にならないよう配慮しながら準備や後片づけに参加して頂いている。一人ひとりに合わせた食事の内容で、職員も同じ物を一緒に食べながら、安全に、安心に、楽しく、食事が摂れるよう心がけている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師、家族と相談しながら、ご本人希望に添えるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせて何種類かのパット・リハビリパンツを使い分けている。その人に合わせたトイレ誘導を行い、意志伝達のしにくい方には、排泄パターンの把握や様子観察をしっかりとすることで排泄の失敗を減らせるよう努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がられる方もおられる為、希望される方を優先している。その時の体調や様子観察をしながら入浴を勧めている。ADLに合わせ必要に応じて二人介助を行っている。仲良し同士での入浴や、職員との会話、歌を唄ったりしながら、その方にとって安全に安心に気持ちの良い入浴になるよう努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドで休まれる方が多いが洋間でも要望があれば畳を敷いたり、マットレスを入れるなど、ご本人の希望と安全を両立出来るよう努めている。夜間は快適な睡眠がとれるよう室内温度を調整し、冬場は希望される方には湯たんぽを使用している。昼間は居室、掘りこたつのある和室、ソファ等思い思いの場所でくつろがれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道・活け花・ぬりえ・貼り絵・編み物・手作りのゲームやチラシを折るゴミ箱づくり・手作業など、その人の個性や好みに合わせた支援に努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全てご自身でされる方、金庫に預かりご本人が必要な時に財布をお渡りする方、ご本人が全く理解が出来ない場合は家族と相談しながら職員が同行・代行する方等一人ひとりの希望や力に応じた支援に努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り個別の対応はしているが、歩行困難、車イスの方がほとんどの為、個別の外出対応が困難になりつつある。近隣への散歩や買い物時の同行、その時の状況に応じ、職員、家族と共同し対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望があれば可能な限り対応している。毎月一度はイベントを計画し入居者様の希望を盛り込むようにしている。イベント時には家族に連絡し参加を呼びかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の拒否や相手方の迷惑にならない限り、希望に添った支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	手紙や電話、家族を通じ入居者の様子が伝えられ、必要に応じ職員が対応して来訪を呼びかける等している。また多人数での来訪でも随時、応接室・和室・リビングは開放しており、他入居者様の迷惑にならない限り、使用して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアル、資料を各フロアに配布、随時、職員が閲覧できるようにしている。その方の身体状況や認知症の状況により、転倒やそれに伴い生命に関わる危険があると判断した場合は医師・家族と相談し同意の上実施するが、並行して拘束を解除する為の方法や計画を検討して行く。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口のドアや車イスに鈴を付ける等して、徘徊のある方が動かれても他入居者・職員が気付くようにしている。緊急事態が起こる等、見守れる職員がいない状況が発生した場合、やむをえず一時的に施錠する事があるが、通常は別フロア職員が隣接の施設職員と協力し合い対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険がある人には居室、トイレなどドアに音の出るもの(鈴など)を付けさせて頂き、鈴の音で職員が気付き易くしている。必要な方、希望される方にはペンダント式のコールを貸与し職員を呼ぶことが出来る。理解ができず、ベッドからの転落、転倒が予測される方は本人、家族同意の上センサーを設置し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	フロアミーティング・カンファレンス・主任会議等必要に応じ、その方にとって、何がどのように危険か、どのようにしたら安全か等を検証し、職員が理解した上で慎重に対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルや資料、ひやり・はっと、等を検証し、対策を示し事故防止に取り組んでいる。避難、消火訓練、それに関する勉強会は定期的に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応については日常の勤務の中で主任・管理者が職員に対して、予測される急変や事故についての対応を指示している。不定期だが関連するセミナーや講習会には積極的に参加し職員が内容を共有出来るよう取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議や地域の行事、防災訓練参加の場で当事業所について話す機会を多く持ち、近所の人々、町内会、地区の消防団の協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	主として管理者が対応している。起こり得るリスクを理解し納得して頂いた上で、その人らしい暮らし方、望む生活を実現する為の話し合いに進む。「ご本人にとっての幸せ」と家族が思う「幸せ」が違っている事があるので、ゆっくりと丁寧に慎重に何度でも話し合うよう心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや日常の様子を記録。特変や異常が見られた時はフロア主任・副主任・管理者等と協議し、必要に応じ関係医療機関に連絡し指示を仰いでいる。重篤性がある場合には家族とも連絡をとり協力をお願いしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬について、情報はファイルし職員がすぐに確認出来、誤薬の起きないように努めている。症状の変化については、細かく記録し、問題があれば協議し必要に応じ医療機関に報告し指示を仰ぐ。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの排便状況を記録しその方に合わせた食事の工夫をしている。散歩や体操を無理のないよう取り入れられている。同時に病院と連携し便秘に対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	拒否があり毎食後の口腔ケアが出来にくい方もおられるので、一人ひとりに合わせて対応している。必要に応じ歯科医院の協力を得、定期的に往診での口腔ケアをして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量を記録。二十四時間を通してバランスを保てるよう努めている。その方の嚥下能力に応じて、ストロー・吸い口・とりみ付き等個別に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに基づき対応、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理器具は洗剤でしっかり洗い乾燥機で乾燥。食材は必要以上の買い置きをせず、三日ないし、四日分に分けている。野菜は青果市場から新鮮なものを仕入れ、その他は近くのスーパーで出来るだけ国産の新鮮で安全な物を購入している。作り残し、食べ残しが出ないようにその時々的人数、量を確認しながら調理作業に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には桜の木等を植え玄関付近には四季折々植物を置くように努めている。車椅子が楽に通れるスペースを確保しながらも、ベンチや椅子を配置し、「ちょっと腰掛ける」事が出来る。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室・トイレ等比較的狭い空間には車椅子が当たっても、衝撃や大きな音のしないよう緩衝材を設置している。光はブラインドや照明の調整している。各フロア入口、リビングには季節感のあるものを置き昔ながらの日めくりや、手作りカレンダーを貼るなどしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を何箇所にも配置、また和室やキッチンなどで、独りでも複数でも思い思いに過ごして頂ける。必要に応じてソファやテーブル等は配置変更は随時出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当然、そのようにしているが、ご本人の様々な変化に合わせて居室内外の配置のほか柔軟に対応すべく職員・家族で相談しながら工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	真夏・真冬は外気温に合わせることは入居者様にとって危険を伴う場合も予想されるので重視していない。年間を通して屋内の気温を大差無いう調整し、個別では体調に合わせて室温・衣類との組み合わせで調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全と安心を第一に考えながら、ご本人の身体機能を活かした生活が送れるよう、ご本人の気持ちを大切に、進めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方にとってわかりやすい表現や言葉遣いで声掛けをし、常にその方の表情や行動に注意を払い、仮に失敗されても、職員は落ち着いて対応しその方が傷つくことが無いような支援を心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には散歩や外気浴、花火や町内のはね踊り等様々な場面で活用し、楽しんで頂いている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田園風景の広がる自然豊かな環境にあり、ゆったりとした生活を送って頂いています。認知症ケア専門士をはじめ優秀な介護職員により、お一人お一人に寄り添った介護サービスの提供しています。日常の様々な手仕事(洗濯物/食事の準備・片付け/洗い物など)や職員手作りのゲームなどのレクリエーション、お誕生日会や外食・外出などのイベント、また地域の方々との交流(保育園児/中学生の慰問/町内行事への参加他)を通じて認知症の高齢者の方々お一人お一人が安全で安心し安楽に、尊厳と生きがいをもって暮らして頂けるよう支援させて頂くために職員一同、日夜頑張っています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 憩 (ユニット2F)

評価年月日 2009年12月19日

記入年月日 2009年12月3日

記入者 代表/管理者 氏名 青井 靖修

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>理念をもとに入居者様を支え、理念を目標に入居者様を支えて行けるよう努力しています。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>スタッフミーティングや申し送りの時など機会があれば理念に触れ、具体的なケアについて統一を図っています。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
	<p>玄関、応接室、リビングなど来訪者の方々の目に付きやすい場所に理念の紙を貼り、家族や地域の人々からの質問や相談に対しては理念に基づいてお答えしています。</p>		
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>職員も「地域の住民」としての自覚を持ち地域の人々と接し挨拶や声の掛け合いが自然にできている。近道、通り道として利用される方も多い。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>町内会の一員として町内会活動や行事には積極的に参加している。近隣の保育所、学校からの慰問、体験学習の受け入れなど交流が進んでいます。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などを利用して勉強会や講習会を実施し入居者様や家族、地域の方々と共に学び高め合う場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を踏まえて、主任会議、スタッフミーティング等を通じ目的意識を同じくし、改善に取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様が会議に出席される事により、自然と内容は入居者様が暮らしやすい、安心して生活出来る施設造りが主体になっています。その上で事業所の問題点や今後の課題として提起し参加者から意見を戴いています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市生活福祉課担、介護保険課、障がい福祉課当者とは細かな事でも連絡を取り意見交換をしています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員すべてに勉強会などでの理解は出来ていない。必要な入居者様はすでに成年後見人制度を利用している。		セミナーへの参加、勉強会の実施を積極的に進めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成、各フロアに配布し職員いつでも閲覧できるようにしている。申し送りやミーティング等で検証し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前の説明をしっかりと行い、入居者や家族からの質問や疑問には必ず返事を返し、必要であれば入居者、家族、職員で話し合いをしてお互いの理解と納得を得るよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からの意見、不満、苦情などの訴えがあると同時に介護日誌に内容を記録し職員が対応している。すぐに対応できない問題はミーティングやカンファレンス、会議にかけて問題解決を図っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月定期的に担当職員の手書きによる「家族への手紙」で健康状態や暮らしぶり等を報告。請求書と共に金銭管理帳等必要なものは原本またはコピーにより報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各フロア入口に意見、苦情箱を設置している。必要に応じてフロア会議、主任会議、社内会議などにかけて問題解決を図っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見や提案は常時主任 管理者へ報告されており、必要に応じフロア会議、主任会議、社内会議にかけ、運営に反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ勤務変更ができ、必要な日時に職員が応援に入れる体制をとっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ず職員の配置転換・離職はあるが、ダメージを与えないようお別れ会等をして入居者様が納得のいくような配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだまだ回数は少ないが外部のセミナーや研修会への参加を積極的に勧めていおり、参加しやすい環境づくりにも努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所との交流の機会を多く設けている。合同のイベントや勉強会、合同の運営推進会議等。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	花見、忘年会などの親睦会を会社負担で実施している。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇給、賞与	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その方に関わる職員一人一人が、その方の思いを受け止めケアに反映できるよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が納得できるまで何度でも話す機会を設け、それに対しグループホームとして何が出来るか、出来ないか等をしっかり説明している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時すぐに入居出来ない場合が多いので、必ず複数の他事業所(小規模多機能施設、ケアハウス、老人保健施設等)の紹介もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り、何度か足を運んでいただき他の入居者様や職員との馴染みの関係を作りながら入居されるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中でご本人の出来る範囲の仕事(洗濯物干し・たたみ・食器拭き・ゴミ箱折・編み物など)を職員と一緒にする中で、話を傾聴したり、教えて頂く事で感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に関する事は、必要に応じ家族に相談し意見を聞いた上で進めている。クリスマス会などのイベントにも案内を出し一緒に楽しんで頂けるようにしている。また通院介助やご本人の買い物など相談しながら協力していく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、家族とは出来る限り、入居前の話し合いをしっかりと行いその関係や背景を職員が理解した上で適切な対応を取っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族の話をよく伺い、ご本人の要望があれば、個別対応や家族と相談し対応をお願いしている。また、面会や家族		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性や状況に合わせて入居者様が安心して楽しく生活できる環境づくりを心がけている。イベントやレクリエーション、食事等の時も状況に合わせて柔軟な対応を取るよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去(入院)された方への継続的なお見舞いをしている。また退去(死亡)された方のご家族からの紹介で見学や入居の相談に来られるケースが増えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い汲み取る努力をし、家族とも相談しながらご本人の望む生活の実現を目指している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際し、家族・サービス利用事業所の職員、病院などから情報を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の様子、体調の変化等些細なことも、出来るだけ記録にのこし、定期的なカンファレンスやミーティングにおいて、複数のスタッフにより総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人からの相談や訴えがあれば、その都度必要に応じ医師や看護師、家族、職員と話し合いながら、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っているが、必要に応じて現状に即した見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況の記録など必要な情報は常に閲覧、回覧し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は憩いの場所、憩える場所としての考えに基づき他入居者様の迷惑にならない限り要望に沿った支援をする事を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館での文化活動への参加の支援、温水プールでのリハビリ支援、消防・避難訓練での消防署への訓練内容の申し入れ等入居者さまの意向に沿う支援を実施している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人や家族から相談や依頼があれば、迅速に地域関係者と連携を取り問題解決へ向けた支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	赤坂地域包括支援センターと協働している。運営推進会議で定期的に話す機会を設けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望を最優先した上で、長期的、総合的にご本人・家族にとつて、より安心できるかかりつけ医、その他医療機関を紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	福山記念病院、友愛病院、下永病院と連携している。	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	医療連携契約により福山記念病院の看護師(往診担当の看護師も含む)と常に相談できる状況である。また隣接する事業所に勤務する看護師とも連携しており、細やかで迅速な対応が取れるようになっている。	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	ご家族とも入院後の計画を聞き、入院生活を家族任せにしない。洗濯物など、事業所と家族が分担する事で職員が病院に出向く機会も増え、入居者様の現状の確認や励ましの声掛けをし、看護師、家族との情報交換や相談がしやすくなるように努めている。	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時に当事業所の現状を理解して頂き、リスク面も含めて状況に即して関係者が集まり何度でも繰り返し話し合い、誰もが後悔しないよう、慎重かつ綿密に進めている。	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	事業所の「できること・できないこと」は医師や看護師の指示を仰ぎながら見極めご本人・家族に説明している。また状態の変化とともに、必要に応じ看護師、医師、家族と連絡を取り合い情報を共有しながら、今後の変化に備え検討や準備を行っている。	
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	身近なものの馴染みの物を持って行くことは勿論だがより多くの情報交換をし、場所や人が変わっても住み替え前と同様のサービスが提供され不安や混乱を最小限に抑えるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その方の尊厳を大切にしながらも親しみやすさを失わず、安心して生活して頂けるような声掛けや対応を心掛けている。記録や個人情報についても丁寧な取扱いを心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>発語の状態が良くない方にはあいうえおボードや筆談を用いている。声掛けの際には一方的にならないよう心がけ、衣服の着脱介助の際は、何枚かお出ししその中から好みのもので選んで頂くようにする等、自己決定出来るよう配慮している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>高齢化によるADLの低下、認知症の進行による周辺症状の出現・不穏行動など一人ひとりの希望にそうすることが困難な時もあるが、入居者様が決して不快・苦痛な思いをしないよう心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容室・美容室は入居者様の望む通りに支援している。憩への出張理容・美容、好みの店、職員によるカット等。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>望まれる方や出来る方には声掛けしながらその方の負担にならないよう配慮しながら準備や後片づけに参加して頂いている。一人ひとりに合わせた食事の内容で、職員も同じ物を一緒に食べながら、安全に、安心に、楽しく、食事が摂れるよう心がけている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師、家族と相談しながら、ご本人希望に添えるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせて何種類かのパット・リハビリパンツを使い分けている。その人に合わせたトイレ誘導を行い、意志伝達のしにくい方には、排泄パターンの把握や様子観察をしっかりとすることで排泄の失敗を減らせるよう努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がられる方もおられる為、希望される方を優先している。その時の体調や様子観察をしながら入浴を勧めている。ADLに合わせ必要に応じて二人介助を行っている。仲良し同士での入浴や、職員との会話、歌を唄ったりしながら、その方にとって安全に安心に気持ちの良い入浴になるよう努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドで休まれる方が多いが洋間でも要望があれば畳を敷いたり、マットレスを入れるなど、ご本人の希望と安全を両立出来るよう努めている。夜間は快適な睡眠がとれるよう室内温度を調整し、冬場は希望される方には湯たんぽを使用している。昼間は居室、掘りこたつのある和室、ソファ等思い思いの場所でくつろがれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道・活け花・ぬりえ・貼り絵・編み物・手作りのゲームやチラシを折るゴミ箱づくり・手作業など、その人の個性や好みに合わせた支援に努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全てご自身でされる方、金庫に預かりご本人が必要な時に財布をお渡りする方、ご本人が全く理解が出来ない場合は家族と相談しながら職員が同行・代行する方等一人ひとりの希望や力に応じた支援に努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り個別の対応はしているが、歩行困難、車イスの方がほとんどの為、個別の外出対応が困難になりつつある。近隣への散歩や買い物時の同行、その時の状況に応じ、職員、家族と共同し対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望があれば可能な限り対応している。毎月一度はイベントを計画し入居者様の希望を盛り込むようにしている。イベント時には家族に連絡し参加を呼びかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の拒否や相手方の迷惑にならない限り、希望に添った支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	手紙や電話、家族を通じ入居者の様子が伝えられ、必要に応じ職員が対応して来訪を呼びかける等している。また多人数での来訪でも随時、応接室・和室・リビングは開放しており、他入居者様の迷惑にならない限り、使用して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアル、資料を各フロアに配布、随時、職員が閲覧できるようにしている。その方の身体状況や認知症の状況により、転倒やそれに伴い生命に関わる危険があると判断した場合は医師・家族と相談し同意の上実施するが、並行して拘束を解除する為の方法や計画を検討して行く。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口のドアや車イスに鈴を付ける等して、徘徊のある方が動かれても他入居者・職員が気付くようにしている。緊急事態が起こる等、見守れる職員がいない状況が発生した場合、やむをえず一時的に施錠する事があるが、通常は別フロア職員が隣接の施設職員と協力し合い対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険がある人には居室、トイレなどドアに音の出るもの(鈴など)を付けさせて頂き、鈴の音で職員が気付き易くしている。必要な方、希望される方にはペンダント式のコールを貸与し職員を呼ぶことが出来る。理解ができず、ベッドからの転落、転倒が予測される方は本人、家族同意の上センサーを設置し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	フロアミーティング・カンファレンス・主任会議等必要に応じ、その方にとって、何がどのように危険か、どのようにしたら安全か等を検証し、職員が理解した上で慎重に対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルや資料、ひやり・はっと、等を検証し、対策を示し事故防止に取り組んでいる。避難、消火訓練、それに関する勉強会は定期的に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時の対応については日常の勤務の中で主任・管理者が職員に対して、予測される急変や事故についての対応を指示している。不定期だが関連するセミナーや講習会には積極的に参加し職員が内容を共有出来るよう取り組んでいる。</p>	
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>運営推進会議や地域の行事、防災訓練参加の場で当事業所について話す機会を多く持ち、近所の人々、町内会、地区の消防団の協力を得られるよう働きかけている。</p>	
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>主として管理者が対応している。起こり得るリスクを理解し納得して頂いた上で、その人らしい暮らし方、望む生活を実現する為の話し合いに進む。「ご本人にとっての幸せ」と家族が思う「幸せ」が違っている事があるので、ゆっくりと丁寧に慎重に何度でも話し合うよう心がけている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェックや日常の様子を記録。特変や異常が見られた時はフロア主任・副主任・管理者等と協議し、必要に応じ関係医療機関に連絡し指示を仰いでいる。重篤性がある場合には家族とも連絡をとり協力をお願いしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者様の薬について、情報はファイルし職員がすぐに確認出来、誤薬の起きないように努めている。症状の変化については、細かく記録し、問題があれば協議し必要に応じ医療機関に報告し指示を仰ぐ。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>入居者様一人ひとりの排便状況を記録しその方に合わせた食事の工夫をしている。散歩や体操を無理のないよう取り入れられている。同時に病院と連携し便秘に対応している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>拒否があり毎食後の口腔ケアが出来にくい方もおられるので、一人ひとりに合わせて対応している。必要に応じ歯科医院の協力を得、定期的に往診での口腔ケアをして頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量を記録。二十四時間を通してバランスを保てるよう努めている。その方の嚥下能力に応じて、ストロー・吸い口・とりみ付き等個別に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに基づき対応、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理器具は洗剤でしっかり洗い乾燥機で乾燥。食材は必要以上の買い置きをせず、三日ないし、四日分に分けている。野菜は青果市場から新鮮なものを仕入れ、その他は近くのスーパーで出来るだけ国産の新鮮で安全な物を購入している。作り残し、食べ残しが出ないようにその時々的人数、量を確認しながら調理作業に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には桜の木等を植え玄関付近には四季折々植物を置くように努めている。車椅子が楽に通れるスペースを確保しながらも、ベンチや椅子を配置し、「ちょっと腰掛ける」事が出来る。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室・トイレ等比較的狭い空間には車椅子が当たっても、衝撃や大きな音のしないよう緩衝材を設置している。光はブラインドや照明の調整している。各フロア入口、リビングには季節感のあるものを置き昔ながらの日めくりや、手作りカレンダーを貼るなどしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を何箇所にも配置、また和室やキッチンなどで、独りでも複数でも思い思いに過ごして頂ける。必要に応じてソファやテーブル等は配置変更は随時出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当然、そのようにしているが、ご本人の様々な変化に合わせて居室内外の配置のほか柔軟に対応すべく職員・家族で相談しながら工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	真夏・真冬は外気温に合わせることは入居者様にとって危険を伴う場合も予想されるので重視していない。年間を通して屋内の気温を大差無いう調整し、個別では体調に合わせて室温・衣類との組み合わせで調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全と安心を第一に考えながら、ご本人の身体機能を活かした生活が送れるよう、ご本人の気持ちを大切に、進めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方にとってわかりやすい表現や言葉遣いで声掛けをし、常にその方の表情や行動に注意を払い、仮に失敗されても、職員は落ち着いて対応しその方が傷つくことが無いような支援を心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には散歩や外気浴、花火や町内のはね踊り等様々な場面で活用し、楽しんで頂いている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田園風景の広がる自然豊かな環境にあり、ゆったりとした生活を送って頂いています。認知症ケア専門士をはじめ優秀な介護職員により、お一人お一人に寄り添った介護サービスの提供しています。日常の様々な手仕事(洗濯物/食事の準備・片付け/洗い物など)や職員手作りのゲームなどのレクリエーション、お誕生日会や外食・外出などのイベント、また地域の方々との交流(保育園児/中学生の慰問/町内行事への参加他)を通じて認知症の高齢者の方々お一人お一人が安全で安心し安楽に、尊厳と生きがいをもって暮らして頂けるよう支援させて頂くために職員一同、日夜頑張っています。